



お~い  
西大泉



池田 正さん

知られざる魅力がい~っぱい!



西大泉在住 20年、  
ようこそいらっしゃいました。  
佐伯裕子さん

# はしっこライフ の楽しみ方

石田節子さん  
みんなが玄関廻りを楽しく  
きれいにしているわ。

西大泉 練馬区

私西大泉に住んでました!  
芝生畑が多いトコね。  
町田ジョエナさん

## 東京23区で最西端の地

今号のまち・西大泉は、一歩西に足を踏みだせば西東京市、北に向かえば埼玉県新座市に行ってしまうはしっこのまち。練馬区はもちろん、東京23区でも西に位置しています。

区民調査隊10名がいざ出動。「マンホールの模様が区境で違う!」「練馬区に飛び地があるんだって!」あっという間に発見の嵐。そんな楽しいおしゃべりをしながら、畑やブドウ畑の道を歩いていると、様々なまちの姿が現われてきました。

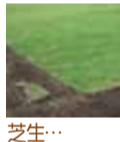
**下を向いて** マンホールの模様、玄関  
**歩いて** まわりの鉢植え、芝生畑…。  
**みよう!** 西大泉のおもしろさは、  
足元にあり!?



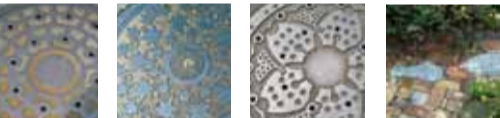
最西端の地には、目印が何にもないなあ。記念碑を建てたらどうやるか?



趣向凝らした玄関



芝生…



マンホールの模様も、いろんなものがあるね。 おや!ワニ?!

## 西大泉の農地率は区内でもトップ!

左下の農地分布図でも一目瞭然。西大泉には、今なお畑が多く残っていることがわかります。練馬区の農地率が平均5.8%なのに対し、西大泉は18.4%も。



農地率分布図  
練馬区みどりの実態調査報告書(平成19年)より

町別	練馬区の農地率ランキング
1	西大泉町 35.2%
2	西大泉2丁目 31.6%
3	大泉学園町3丁目 26.9%
4	西大泉4丁目 25.1%
5	土支田2丁目 24.7%

23区で唯一の飛び地には、563坪にわずか8世帯が住んでいる。なぜ飛び地になったのかは諸説あり。練馬区なのに、電話の市外局番は048。ここだけ旧町名が残る。

## 西大泉町1179番地



直売所は季節や時間帯によって野菜がないときもあるよ!

- 凡例
- 直売所
  - ぶどう園
  - ブルーベリー農園
  - 食事処
  - パン屋さん
  - バス停
  - 農地(平成23年4月現在)
  - 公園・運動場など
  - ちよイス(P4参照)

**稲荷神社**  
江戸時代初期の創建。四面の題目塔があったので(現在は大泉西小学校北側に移設)四面塔稲荷と呼ばれる。上清戸道・中清戸道分岐の目印。

**清戸道** きよとみち  
練馬区史によると、(四面塔あたりの)大正7年の交通量調査では、1時間平均289人、荷車106、荷馬車23、人力車9、自転車58とある。西大泉の主要道路だったことがうかがえる。

**大泉堀**  
白子川の支流「大泉堀」が流れる。現在はふた掛けされ、水路敷に。



柴田理恵子さん

## 諏訪神社「狐の大根取り入れの絵馬」

昔の三十番神が諏訪社になり、明治44年(1911)近くの八つの稲荷を合祀。大根作りが盛んだった当時に奉納された絵馬(練馬区登録文化財)の複製が境内の稲荷でみられる。

練馬区史 歴史編より

**こさくつぱら広場**  
練馬区は現在、「こさくつぱら広場」とその周辺の農地を、永続的なみどりとして残す手続きを進めている。

山中実さん  
農地が多いことは、みどり大好き人間にとって、うれしいこと!



山中実さん

**したみち通り**  
清戸道の下を通る道だから「したみち通り」と呼ばれているらしい。

平田英二さん  
したみち通りの交差点には、橋の名前が残っているよ。



平田英二さん

## その昔、西大泉は近郊農村のはしっこだった

江戸時代から昭和初期まで、農家の人々は、馬の背や荷車に野菜を積み、また人の背に担いで、江戸・東京へ野菜を売りに行きました。このように、主に生鮮野菜を生産し出荷していた地域を『近郊農村』と言いますが、夜中から夜明けに村を出発して、江戸の市場や町家で売りさばくには、歩いておよそ5時間、一日で往復できる5里(約20km)が、近郊農村地帯の限界でした。

西大泉は、まさしく清戸道(江戸川橋付近から清戸=現在の清瀬市を結ぶ古道)を歩いて、神田

から5里のところ。そして、当時のこの地域の農作物に、野菜だけではなく麦・雑穀・イモなどの生産も多く見られたことから、西大泉は、近郊農村の境界に位置し、それを超えた遠郊農村と双方の特性が混ざり合った地域だったといえます。



西大泉には「こんもりした屋敷森」があまり見られない。なぜだろう? 堆肥がたくさんいる野菜作りの比重が低く、大量の落ち葉を集める必要がなかったからじゃないかな。こんなのところにも、近郊農村のはしっこという性格が見られるね。  
解説: やとじい(平田さん・ふるさと文化館サポーター) やとじい「谷戸の神」の申し子。谷戸について聞けば右に出るものなし。詳しくはこもれび43号「たんけんぬくいのまち」を見てね!

そんな西大泉の暮らしも、時代とともに変わり、高度成長期の人口増加に伴って、徐々に住宅地としての色合いが濃くなっていきました。しかし、そこは「はしっこ西大泉」。「畑とみどりと住宅が調和するまち」での暮らしを愛している人たちがいます。次のページで紹介する方々の話から「はしっこライフの楽しみ方」を探ってみましょう!

畑や直売所がある、このまちの特徴を活かす方法はないものかしら…。



島田光さん

地元の方の、とっておきのお話を聞いてみましたよ!



小原裕子さん